

研究本部内に免疫研究センターを新設

免疫領域での独創的な研究を推進し、未充足ニーズを満たす画期的新薬の創製を目的とした組織の新設

信頼性保証本部を新設

医薬品の品質保証と適正使用の一層の推進を目的とした組織体制の強化

オンコロジー研究開発センターを新設

オンコロジー領域での研究開発のさらなるスピードアップと機能強化を目的とした組織の新設

営業本部内にオンコロジー統括部を新設

オンコロジー領域での積極的な営業戦略の立案と推進を図ることを目的とした組織体制の強化

4月

株式分割を実施

(普通株式1株につき5株の割合)

より投資しやすい環境の整備、投資家層の拡大と株式流動性の向上を目的とした投資単位当たり金額の引き下げ

抗悪性腫瘍剤

「オブジーボ点滴静注」

韓国で効能追加および新たな承認を取得

- 化学療法未治療の悪性黒色腫患者さんへの使用拡大の承認を取得
- 局所進行性または転移性の非小細胞肺癌の効能追加承認を取得

オブジーボ

欧州で効能追加承認取得

- 進行期腎細胞がんの効能追加承認を取得
- 進行・再発の非扁平上皮非小細胞肺癌の効能追加承認を取得

東日本大震災復興支援活動

「すこやかカラダ大作戦 in みやぎ」

事後プログラム実施(CSR活動)

被災地の子どもたちに「スポーツや体を動かす楽しさ」を伝える活動(3~5月)

富士山麓自然公園での植樹の

取り組みに参加

水源涵養と自然林復元、富士山を望む良好な自然環境の形成を図る取り組みに参加(フジヤマ工場)

5月

オブジーボ 台湾で承認取得

切除不能または転移性悪性黒色腫、進行・再発の扁平上皮非小細胞肺癌を対象に、台湾ではじめて承認を取得

オブジーボ 米国で効能追加承認取得

再発または進行した古典的ホジキンリンパ腫の効能を対象に迅速承認を取得(血液がんでは初の抗PD-1抗体薬)

オブジーボ 欧州で新たな承認を取得

悪性黒色腫を対象に、オブジーボと抗悪性腫瘍剤「ヤーボイ点滴静注液」の併用療法の承認を取得

関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注オートインジェクター」発売

点滴静注用製剤および皮下注シリンジ製剤に次ぐ新たな剤型を日本で新発売

日本のIDACセラノスティクス株式会社と独占的評価および

ライセンス交渉の契約締結

開発中のヒト化抗CD4抗体「IT1208」について、優先的に評価し、ライセンス交渉する契約を締結

オブジーボ

日本で効能追加承認取得

根治切除不能又は転移性の腎細胞がんの効能追加承認を取得

抗悪性腫瘍剤

「カイトロリス点滴静注用」発売

血液がんの一種である多発性骨髄腫の治療薬として、日本で新発売

7月

ベルギーのセリアド社と

ライセンス契約締結

開発中のナチュラルキラー細胞受容体NKG2Dを用いた他家CAR-T細胞NKR-2を、日本・韓国・台湾で開発・商業化する権利を取得

8月

営業本部内にオンコロジー製品戦略部を新設

オンコロジー領域での製品戦略の機能拡充およびより迅速な意思決定を目的とした組織の新設

熊本地震の復興支援を兼ねた社内ウォーキング・キャンペーン実施

社員の健康増進を目的としたイベントで、熊本阿蘇地方の農産品を目標達成記念品に使用

オブジーボ

日本で効能追加承認取得

再発または難治性の古典的ホジキンリンパ腫の効能追加承認を取得

米国ライガンド社と創薬技術に関するライセンス契約締結

遺伝子改変動物を使用して完全ヒト型の単一特異性または二重特異性抗体を創製する技術を導入

オブジーボ

米国で効能追加承認取得

局所進行または転移性の尿路上皮がんの効能を対象に迅速承認を取得

二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」発売

慢性腎臓不全に伴う血液透析患者さんに透析ルートから投与する薬剤として、日本で新発売

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

国立がん研究センターと包括的研究提携契約を締結

優れた抗がん剤の創出、がん免疫療法などでのバイオマーカー探索を目的に、共同研究の提携関係を強化

富士宮市共催の環境教育「水のふしぎ探検隊」に協賛

富士山周辺の自然や水環境への関心を高め、環境について自ら考える、小学生対象の体験学習に協賛

抗PD-1抗体関連の特許係争について米国メルク社と和解し、ライセンス契約を締結

米国メルク社等による抗PD-1抗体製品の販売等の特許侵害に対してプリストル・マイヤーズ スクイブ社とともに各国で係争していた訴訟が終結

島本町立第三小学校(水無瀬研究所所在地)で出張授業「薬のヒミツ・マナブ!」実施

理科学習に対する意欲を高めることを目的とした小学生対象の出張特別授業を継続的に実施

オブジーボ

米国で効能追加承認取得

再発または転移性頭頸部扁平上皮がんの効能追加承認を取得

オブジーボ

欧州で効能追加承認取得

再発または難治性古典的ホジキンリンパ腫の効能追加承認を取得

日本生化学会の新事業「早石修記念海外留学助成」への支援を決定

留学資金の助成を通じ、若い研究者が海外で生命科学の研究をするための事業を支援

米国のエクスケム社と創薬提携契約を締結

がん領域での新規低分子制御薬の創製を目的とする創薬提携契約を締結

スイスのニューマブ社と創薬提携およびオプション契約を締結

がん免疫領域において多重特異性抗体を創製するための技術を導入、開発・商業化のオプション権を獲得

オブジーボ

日本で効能追加承認取得

再発または遠隔転移を有する頭頸部がんの効能追加承認を取得

			百万円	千米ドル ^{※1}
	2015.3 (IFRS)	2016.3 (IFRS)	2017.3 (IFRS)	2017.3 (IFRS)
経営成績				
売上収益	¥135,775	¥160,284	¥244,797	\$ 2,185,690
研究開発費	41,346	43,369	57,506	513,448
営業利益	14,794	30,507	72,284	645,389
当期利益(親会社の所有者帰属分)	12,976	24,979	55,793	498,152
財政状態				
資産合計	524,588	540,450	617,461	5,513,043
資本合計	475,213	476,255	524,211	4,680,456
営業活動によるキャッシュ・フロー	31,579	12,842	74,450	664,731
投資活動によるキャッシュ・フロー	(12,756)	13,037	(17,989)	(160,616)
財務活動によるキャッシュ・フロー	(19,603)	(19,465)	(20,552)	(183,496)
1株当たり情報^{※2}				
			円	米ドル ^{※1}
基本的当期利益	24.48	47.13	105.27	0.94
親会社の所有者に帰属する持分	887.81	889.38	979.42	8.74
配当金	180.00	180.00	40.00	0.36
財務指標等				
親会社所有者帰属持分比率(%)	89.7	87.2	84.1	
ROA(%) ^{※3}	3.6	6.2	12.9	
ROE(%) ^{※4}	2.8	5.3	11.3	
配当性向(%)	147.1	76.4	38.0	
従業員数(人)	2,913	3,116	3,290	

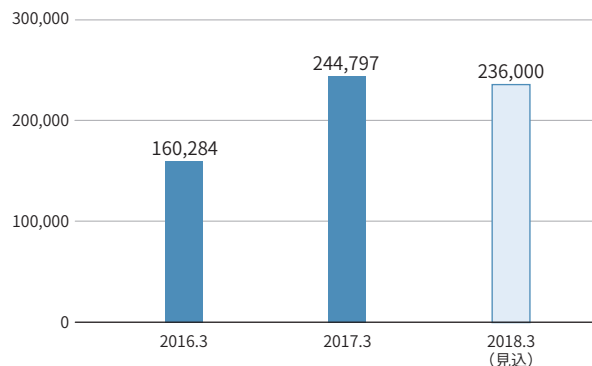
※1 日本円から米ドルへの換算は、便宜上、2017年3月31日現在のおおよその為替レートである1米ドル=112円で換算しています。

※2 当社は、2016年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株主分割を実施しました。「基本的当期利益」「親会社の所有者に帰属する持分」は、2015年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。また、2015年3月期および2016年3月期の「配当金」は、当該株式分割前の金額を記載しています。

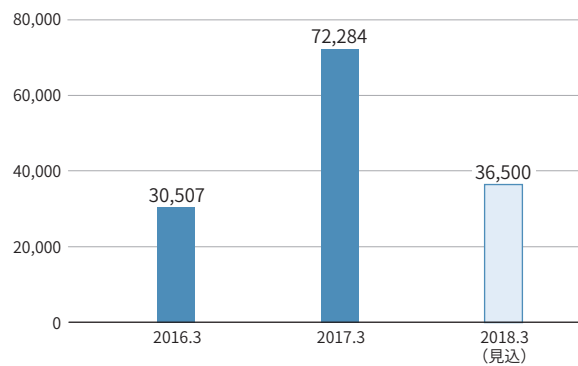
※3 ROA=税引前当期利益/総資産(期首・期末平均)

※4 ROE=親会社の所有者に帰属する当期利益/自己資本合計(期首・期末平均)

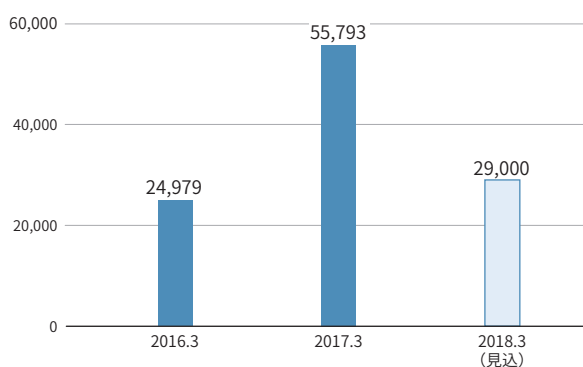
売上収益 (百万円)



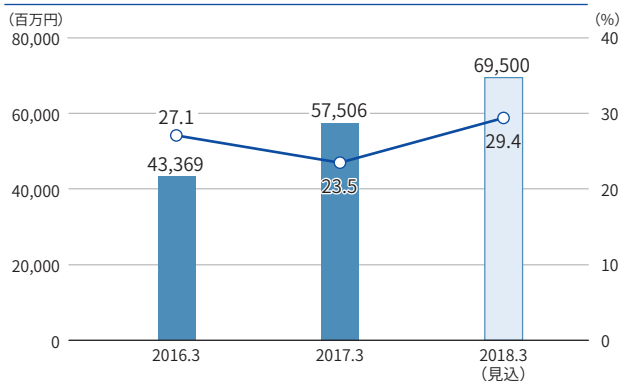
営業利益 (百万円)



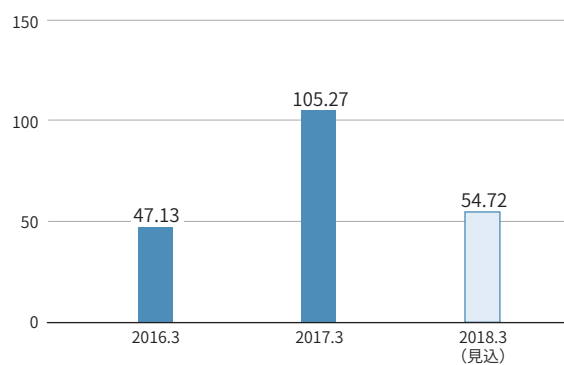
当期利益 (親会社の所有者帰属分) (百万円)



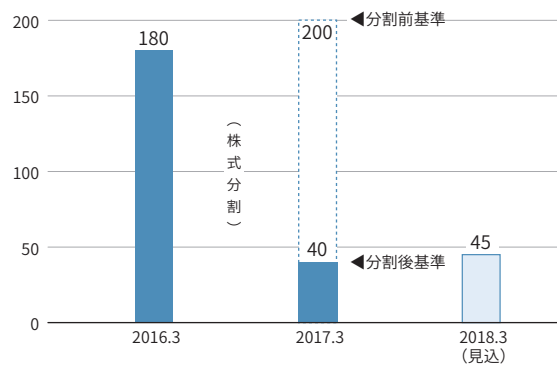
研究開発費／対売上収益比率 (百万円/%)



基本的1株当たり当期利益 (円)



1株当たり配当金 (円)



当社は、2016年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株主分割を実施しました。「基本的1株当たり当期利益」は、2016年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。また、2016年3月期の「1株当たり配当金」は当該株式分割前の金額、2017年3月期および2018年3月期(見込)の「1株当たり配当金」は当該株式分割後の金額を記載しています。

和文コーポレートレポートに掲載している連結財務諸表につきましては、監査の対象とはなっていません。
また、連結財務諸表注記は、和文コーポレートレポートにおいては省略しています。